

邦楽現代

PRO

MUSICA

NIPPONIA

第17号 1986年
17 秋

特集●「星にねがいを」和楽器による現代邦楽「星組合奏団」10周年を迎える

芸大定期演奏会からの報告

現代邦楽合奏曲「ディヴェルティメント」が登場!

特別寄稿●神津善行

「日本の伝統音楽を正確に楽譜で残す方法が理論的に完成していない」



巻頭言

最近、僕はイーミュレーターというシンセサイザーをよく使う。イーミュレーターというのは、サンプリング・キーボードで、本物の楽器の音をサンプリングし、それを波形分析し音を作るのだから、管楽器から打楽器まで、とにかくリアルな音色が得られる。

その外国製のイーミュレーターのメニューに、なんと尺八まで登場してしまつたからおもしろい。考えてみると、近頃は外国人の尺八の先生がいたりして、尺八は世界的な存在になつてきたようである。

宮城道雄以来、邦楽器による新しい作品はたくさん生まれてきた。これは、韓国や台湾についても言えることで、自国の伝統楽器を「伝統」の中に閉じ込めず、新しい音楽の中で新しい息吹きを与えようとする作品が、数多く生まれている。そして今、伝統音楽から解き放たれた邦楽器たちは、西洋楽器と同じレヴエルで、世界中にひろがりつつある、と言える。尺八——日本という図式ではなく、もつと純粹に、ただの「音」として、その存在を主張しはじめたように、僕には思えるのだ。

世界中のあらゆる民俗楽器が、ピアノやヴァイオリンと同じように、ごく自然に、何の気負いもなく（ことさら、伝統楽器であるがために執着されるということもなく）、のびのびと奏でられ、聴かれる。その日は近い。

三枝成章（作曲家）

目次 ● Contents

巻頭言 三枝成章

1

特集「星にねがいを」

和楽器による現代邦楽「星組合奏団」
10周年を迎える

2

芸大定期演奏会からの報告

現代邦楽合奏曲「デイヴエルテイメント」
(佐藤敏直作曲)が登場

5

上木康江・矢崎明子・砂崎知子・遠藤雅古

第96回定期演奏会に豪華ゲスト登場

間宮芳生・松尾葉子

8

特別寄稿 ②

「日本の伝統音楽を正確に楽譜で残す方法が理論的に完成していない」
神津善行

9

対談

沢井忠夫 — 長沢勝俊

11

現代邦楽事情 — 東京を中心に —

田中隆文

13

美恵子の三味線みてある記 ②

「宮下伸・第30巻の世界」を訪ねて

国立劇場邦楽鑑賞教室

泉ピン子さんを見舞う

15

ほうげん抄

日本音楽集団の主な活動記録と今後の予定

16

中国地方公演及び第12回関西定期演奏会報告

藤崎重康

17

日本音楽集団メンバー表

22

お知らせ 編集後記

特集

邦楽器はいま

2



「星にねがいを」

和楽器による現代邦楽「星組合奏団」10周年を迎える

翔んで火に入る夏の合奏研究会

光陰矢の如しとはいうけれど、過ぎ去ってしまったえば、10年間の思い出や出来事などは、ほんのつかの間のことのようにもあるし、昨日のことのようにも思えるものである。

アマチュアの現代邦楽合奏団「星組」も、今年で10周年を迎えちゃったのであるが、当時は、おそらく誰一人として、10年も続くとは想像もしていなかったのではなからうか。

座談会出席者

星組

永井 葉純

佐藤 寛将

中渡瀬典子

三本 博明

米山 康夫

丹野 さえ

日本音楽集団

長沢 勝俊

編集部

司会 高橋 雅光



火をつけた日本音楽集団も「演奏が出来た現代邦楽の愛好者がたくさんふえて、少しでも合奏団として長つづきしてくれたらいいな」と、夕日でも眺めていながら、ぼんやりと考えていたかもしれないし、はたまた「ヘーイッ彼女オ今度邦楽合奏団つくるんだけど仲間に入らないかア」「エーッ、ウツソオーほんとにイ、こわいけど、でもカッコイイ、フアンの人にサインをせがまれたら困るから、早いとこサインの練習でもしとこ」とか何とか、始末書のサ

インだか何だか真偽の程は定かではないが、星組合奏団設立のきっかけをつくった、日本音楽集団代表の長沢勝俊氏は、昨日のこのように、当時のことを語ってくれた。「日本音楽集団は71年の8月から、毎年同じ時期に、多くの人たちに現代邦楽を普及する目的で、北軽井沢で夏季合奏研究会を開きました。それから5年後の76年8月に開いた時、夏だけで別れてしまうのは淋しいのではないかと、もっと、恒久的に稽古をしていったらどうか。アンサンブルの楽しさも、皆さんよくわかったらどう思うか。と言ったら皆さんすばやく反応されて、10人位の方たちが参加の意志を示してくれました。」と、その時参加した生き証人の中で、現在もおお、星組と心中するつもりでガンバツている、琴奏者の水井葉純女史は、星組という名前の由来について、「その場で三木稔氏（当時集団の音楽監督）が、星組とか、いろんな組をつくって見たら、といわれたことと、76年10月発足の後、12月の集りの時に内輪だけで演奏しました。その時長沢氏が来られて、楽しくお話をしていましたところ、君たちは星くずもどきだねとおっしゃいましたので、ますますその名前が耳につきまして、それなら、いっそのこと星組という名前にしようと話しました。」と、若い頃を思い出すかのような、遠い眼をして語った。

このように経過をたどりながら、星組のかたちが、だんだんできあがってきたのであるが、星組がスタートした時はどのような状況であったのか、誠実さ一杯、私の佐藤寛将氏に大接近、真相をモロに告白してもらった。「第一回目の音出しの時は、集団の先生方がいらっしやっています。指揮は稲田先生ときまっています。この先生組が何年続くかとかグループをどういうふうに通うかとかいふことよりも、自分が合奏に参加するということの喜びで、それで一杯でした。その後、連絡係とか事務長みたいな役割を少しずつきめて、分担というものがきまってきたのですが、それがかなり後からなのですね。で、星組をどうしたらよいかということも、一人一人から出てきた問題でした。」と、まあこのように、鑑賞する側はカッコイイと思ったり、ステージに立つことにあこがれたりするけれど、演奏する側は、よい演奏をすること、それを継続し活動を維持しなければならぬという責任が生じてくるので、常に火のついた薪を背負った、言わば、カチカチ山のたぬきのようなものなのである。

星組ってえのものもあるわよ

このように演奏しながら合奏団を運営していくのは、たいへん苦労の多いことなのだが、では、どういふことで和楽器に興味をもち、演奏するようになったか聞いてみた。まず最初の登場は、今年の入団で去年まで高校生をやっていた、とてもかわいなお嬢さん、丹野さえさんは「小さい頃からピアノを弾いていて、半田先生（薩摩琵琶奏者・日本音楽集団団員）の作られた曲で、ピアノと琵琶の曲があるのですが、そのテープを聴いて感動して、自分も琵琶を弾きたいなと思いました。星組には半田先生のすすめで入りました。」と、馬の眼のような、やさしい眼をして話してくれた。次は創立まもなくの入団、当（10）年とって20代という、今だにお若く、かつ迫力満点、ポパイとほうれん草の関係のような人、中渡瀬典子女史（十七絃は「和楽器を弾いたのは、大学の頃でした。その頃ブームで最盛期だったのよねえ、クラブ活動もサークルから邦楽部になって、74年位から、あんな年がわかつちやうわウフフフ……」その頃友達にさそわれて、そんなこと始めたのよ。それで卒業するとおみんなやめちやうって、このままだよめちやうのもつまらないなあって思ったのよねえ。そこで吉村七重先生（集団・琴奏者）が、星組でえのもあるわよって言われたので、身のほど知らずに、星組に入っちゃったわ。ルンルン。」と、あつけにとられる位、明かるく賑やかに話してくれたが、この人、とても、責任感のある人で、星組にはなくてはならないキヤラクターである。

同様に、星組を支える大きな力となっているのは、入団6年目の中堅どころ、三本博明氏である。この人は大変真面目な人で、酒を飲むと赤い顔をして「よう、ねえちゃんよう」などと決して言わないような人だと信じてもいいかなあと、筆者は思

舞台うらの泣き笑い

い込むようにしている。その三本氏が斜に構えて、しゃべってくれた。「わたくしは、計算機関係の仕事をしているのであります。コンピュータと芸術というのは、全く結びつかないものであります。仕事と趣味との間を広げたところに身を置こうとしたのが、そもそもの動機であります。尺八を始めたのも入社して4年目位で、それがキツカケなのであります。楽器を練習するのも、いくら疲れたとしても気分転換になって、心をリフレッシュするのはとてもよいものであると思います。全くごもつともなご意見を拝聴させていただきました。合掌。」

演奏活動を10年も続けてくれば、楽しいこと苦しいこと、さまざまな想いが両手でかかえたら、こぼれ落ちるほどあるのではないかと思う。その辺の本音を、ねほりはほりと聞いてみた。水井です。「10年も長居している？」私が10年も夢中で演奏してこれたのは、日本音楽集団の大合奏の形態で、自分達もやりたい。みんなと一緒に走って走らなければならぬ。よろこびを感じたからです。しかし、演奏するのはむずかしいが、よい音楽を聴く心だけは常に持って、よい演奏をしたい。また、この大合奏の形態は、現代邦楽といっても音楽集団にしかないのですよ。すべての和楽器が一同に集まって、日本人の心をもつて、ポリシーをもって演奏することは、体が同意するので。ただ演奏中は、よくまちがえりし、今でも本番前は、体がふるえます。また、慣れないみんなが集りますから、練習はほんとうに苦勞で、年の差も20才位幅がありますので、考え方、結婚している人、いない人等さまざまですから、常に大変です。「はい。今度中は渡瀬の典子女史の番ですよ。演奏中に、大きな音をたてて十七絃の柱（駒）を飛ばした犯人は、何をかくそう、このわたくしです。演奏を聴きに来てくれるお友達は、わたくしばかりみてくれるのよねえ。それで、わたくしが柱をたおしたとすると、みんなびっくりして蚊取り線香になっちゃうのよねえ。うん、みんなちやうするのよ。まだそれだけだったらいいのよねえ。弾いている最中に調絃をまちがえちゃったりして、とんでもない音を出したりしたこともあるのよねえ。ルンルン。でも、あんまりたびかさなってきたら、平気な顔ですませるよになっちゃうたのよねえ。こわいわねえ。だけど、うれしかったこともあるのよ。三木先生が、「巨火」を指揮してくれた時、聴いていたお友達も、曲全体が音楽としてとてもよく聴けたわよ。」と語ってくれたことねえ。わたし、感激しちやうたわ。しかし、星組のお客の中には、星組のコンサートは何かしらアクシデン

座談会にて

●丹野さえさん（琵琶）



●三本博明さん（尺八）



●佐藤寛将さん（三味線）



●米山康夫さん（尺八）



●長沢勝俊（集団）



●永井葉純さん（箏）



●司会：高橋雅光さん（作曲家）



●中渡瀬典子さん（十七絃）



ちゃんとは立腹の様子だが、ここで今まで飛び交う意見を聞いていた、入団半年の好青年、米山康夫氏は「みなさんの中に入って演奏している時でも、目立たないようにしているのですが、尺八が少ない場合、指揮者の方は旋律が少ないと淋しいのか、

1パートも2パートも吹いてと要求してくるので、ヨタヨタとしながらみんなの中に入っている状態で、大変つらいですね。うーん、その気持ちわかるわ。しかし、星組運営上の苦勞はどうなのだろう。三本氏は次のように語っている。「一番の間

題点は人間関係ではないかと思われる。合同練習の方法でのトラブルについては、参加率がまちまちで、そのくせあまり参加しない人からも文句が出てくるのであります。」「佐藤ですが、その好例がプログラムの選定です。人それぞれに好みがあり

ますので意見調整が大変です。話し合いは、全員役員です。ので、みんなにはかり、とことんやりますが、練習に出てこない、弾けていない、アシサンブルがうまくいかないということ、気分が落ちつかなく、出てきている人の中には、うつぶんがたまっていて人がいるのではないかと「思います。」「典子ちゃんですけどね、ある一つの方向でガンバッテいる時、それを乱す人がいるのは、団の一員としてのね、自覚がたりないのではないかなと思います。でも、そういう人達も引っぱっていかなくちゃならないですよ。」

いろいろな苦勞も多いと思うけど、これから星組に続く団体もあると思うのでアドヴァイスがあれば、「佐藤ですが、車の手配を含めて楽器の運搬が大変です。それと、まず安定した練習会場の確保です。そうすれば楽器を移動させずにすむから。」「永井です。それと指揮の先生ですね。指導していただく上で指揮者はプロでなければなりません。」

全くこもつともなご意見で、これには異見ございませぬ？そんなこと言っちゃやいけんよ。——これで一件落着。

星にねがいを——これからの星組

最後になったが、星組のこれからについて、その展望を出席者各人に語ってもらった。

ていきたいし、遊びではなく、せっかくかける時間に集中して、迫力をもって前向きにいきたい。」

水井「みんなと一緒にやりたい。そうすれば曲についてもいいものができると、つまらない葛藤もなくなると思います。」

中渡瀬「今のこどもは、自分の国の楽器を知らないのでも、実際にさわらせてあげたいと思うわよ。日本の音楽の良さ、楽器のおもしろさをもみなで、わかちあいたいなあ。」

三本「ウフフ。私も星組には、ずーっといますので、お手伝いしていきたいと思う。」

米山「今まで欧米化の環境の中で育ってきたけど、邦楽器や日本の音楽が一番合うな、自分自身だなと思うところがある。この気持ちを大切に広めていきたいと思う。」

丹野「これからも、星組でずーっと続けていきたいなあと思います。」

長沢「星組のような団体もあってきてほしいし、社会人として音楽家と違った場をもっているのだから、そういうところへアピールして、力を生かし、発展してもらいたい。」

星組は、信望の厚い佐藤俊幸団長のもとで演奏活動を続けてきたが、創立10周年を記念して、今年の12月にアメリカ公演を行う。その成功を祈ると同時に、結束力よくこれからも、発展してもらいたいと思う。そして、楽しく聴ける合奏団はと聞かれたら、星組が、そうなんだよ、と答わせないね。

芸大定期演奏会からの報告

現代邦楽合奏曲

「ディヴェルティメント」(佐藤敏直作曲)が登場



芸大邦楽科の定演と云えば古典主体のプログラムが並ぶのがつねとされてきたが、今年五月二十九日に行なわれた第36回定演（東京文化会館大ホール）では今までの慣例を破って、いわゆる現代邦楽と云われる部類に属する作品が初めて登場した。

能楽「清経」、舞臺子「絃上」、尺八「鳳将雛」、箏曲「江の島曲」、長唄「椽の木」に続いてプログラムの最後を飾ることになった合奏曲「ディヴェルティメント」（佐藤敏直作曲）は、一九六九年に日本音楽集団が委嘱初演して以来、多くの愛好家によって演奏され親しまれている曲である。

本番を夜にひかえて、熱気のもつたりハーサルが終ったところで先生方や学生さんたちに話を伺ってみた。

座談会

出席 上木康江

矢崎明子

砂崎知子

遠藤雅古

編集部

田村拓男・野口美恵子・内藤洋子

時代は動いている、趣向を変えて現代の作品も。今、芸大はいろんなことが出来る状況にある。箏曲の学生は三重苦。

芸大のことについては取材したいことがたくさんありますし、今後とも大いにお付合をお願いしますと思っております。

古典指向の芸大の定演で、初めて現代邦楽の「ディヴェルティメント」が登場したことは私たちにとても大変嬉しいことです。また昨秋の芸大芸術祭では22年前の日本音楽集

団第一回定演で初演した「子供のための組曲（長沢勝俊作曲）」を取上げられたとのこと、その時の三味線を弾いた人が、集団創立メンバーである杉浦弘和さんのご子息孝夫君だったと聞き、感慨一入なのですが、今回現代作品を取上げられた動機は、上木 芸大は古典主体でやっています。それは洋楽でも同じことです。宮城道雄の合奏曲は取上げていました。古典でも三味線と箏の二対一の曲を大勢でやると難しいけれど、やる度に力がつきました。長いことそれで来たわけですが時代は動いてい



上木康江先生



矢崎明子先生



砂崎知子先生



遠藤雅古先生

るし、今年も趣向を変えてというこ
とで現代の作品を取上げてみました。
もちろん古典を主体にしてそれをふ
まえた上での現代だと思えますけれ
ど……。学生が卒業すれば、古典・
現代をいとわず、いろんなところで
活躍しなければならぬので、その
準備も在学中に身につけておかなけ
ればなりません。それに今芸大には、
矢崎・砂崎先生のように新しい音楽
の草分け的な方や指揮の遠藤先生も
おられるし、いろんなことが出来る
状況にあります。『ディヴェルティメ
ント』は砂崎先生の推薦でした。

学生は勉強が大変ですか。
上木 日本は古典は歌が主体なので、
その歌を習って、三味線が弾けて箏
が弾けなければならぬ三重苦、そ
れを全部舞台でやるので箏が一番大
変です。

新しい合奏曲にまで手がまわら
なかった理由にも、その大変さがあ
るのでしょうね。

上木 でもやっつては来ましたが「合奏
研究」という講座が何年前からあ
りましたし、その前からも学生は自

然にやっつて来ています。邦楽科全体
のために作られたのですが、結局本
当に取組んで来たのは箏曲の学生で
すね。

砂崎 箏曲の学生は五線譜に割合親
しんでいます。他の学生はほとんど
線がなかったのです。以前「合奏研
究」を担当された先生方も、お稽古
にならないくらいに大変苦労され
たらしい。パトントタッチした私も、そ
れを聞いていたので気持ちを引き締
めてかかりました。『ディヴェル』はかな
り難しい曲ですが、曲自体学生にわ
かり易いし、受け入れ易い曲なので
取上げることにしました。打楽(長
唄)の学生たちもとても楽しそうに
やってくれました。

上木 易しい曲を取上げるより難し
い曲を取上げるほうがかえってよい
のではないのでしょうか。
遠藤 「砂崎先生は、ふだんはやさし
いけれど練習の時はすごくこわいん
です」と学生が云っていました。(笑
い)

砂崎 習ってこなかったら怒るんで
す。

芸大在学中にこのような新しい
ものを体験して卒業後、全国に散っ
て行くわけで、その影響は大きいと
思います。さて遠藤先生のご感想は
遠藤 私は芸大に入って35年、ずつ
と洋楽を勉強して来たわけですが、
日本人であるし、日本人の音楽づく
りにお役にたてるならこんな幸せな
ことはない。むしろまわりまわって
そこに戻るべきだと思っています。
今回こういう機会を与えて下さった
ことに感謝しています。

最初の棒の振りおろしに
反応なし。笛の音が洋楽
的？

遠藤 ここまでお育てになるのに大
変だったろうなと思います。最初の
練習の時黙って棒を振りおろしてみ
たら何の反応もなし。全くダンマリ
後でみんなでお笑い。三三、四イで
始めたら出られる。振ってみたら洋
楽と同じように反応できる。ただ休
みの扱いが意外に死んでいる。む
しろ休みの方が大切だということ
を云ったらすぐ棒についてこれるよ
うになった。全く不自然さを感じな
い……。

私はソルフエーゼの時間を持たさ
れていましたが、洋楽的なあまりに
もキチンとしたことを教えることが、
間とかの問題で害になるのではない
かと心配しました。今になってみれ
ば、結局は洋楽のアゴキグ・アー
テイキレーションの処理と同じこと
ではないかと思っています。

今回の練習を洋楽系の学生が聴きに
来ていて、「笛の音が洋楽器の笛のよ
うに聴こえる」という。果してそれ
が良いことが悪いことかはわからな
い。ただ私の音楽を創る場が洋楽的
なものにしていくのだからと思うん
です。『ディヴェル』の二・三章は洋楽
的ですが、二章は尺八的・日本的な
面が出せると思います。

指揮は割合よく見ること
が出来た。
新しい合奏曲も抵抗なし。
ここで学生さんの感想も聞いてみ
た。
学生(箏) 合奏の中でバランスが
難しいと思った。一人で出すピアノ
(弱音)と大勢で出すピアノの違い。

指揮は割合よく見ることが出来たと
思う。新しい合奏曲もそれほど抵抗
なく出来た。
学生(笛) 笛のメロディーをどの程
度日本式に崩してよいか迷った。
学生(尺八) 五孔尺八なので七孔尺
八のようにはいかなかった。
学生(三味線) 三章の初めのところ
など三味線のポジションとしてはあ
まり鳴らないところなので、良い音
を出さうとしても出なかった。

共通な記譜法は出来ない
ものか。邦楽専門の作曲
科を設けたい。

遠藤 楽譜にカナがふってある。記
譜法が流派・楽器などで違うが、共
通なものが出来ないものかと思いま
す。芸大の能楽がオペラ科、長唄が
音楽科、箏曲が器楽科だとすれば邦
楽の作曲科があつて、共通な記譜法
や奏法を作つてやればよい。あるい
は現在ある作曲科に邦楽専門の作曲
科を設ければよいと思います。日本
の音楽界(洋楽)でも作曲が一番選
れていると思つていますが、日本人
の血を持っているのだから邦楽のた



芸大教室にてけい古中の学生たち



座談会風景

めの作曲科、作曲家を育てることが必要だと思えます。そうすることに よって邦楽界を盛り上げることが出来 ます。

——今回私たちも練習を聴きながら 思ったことは、芸大の中で新しい作 品が生れてこないかなと云うことで す。いろいろな料や人材が揃ってい るわけだし、音楽界の改革をリード する気概をもって是非進めて欲しい と思えます。

遠藤 願わくば僕らが云うのではな く、邦楽の先生方の中から合議に提 案されることを望んでいます。専門 専門のお立場から、いろいろ難しい 問題もあって、そのために全体を見

廻した発言が出てこないことがある のではないかと思います。

——遠藤先生のお話の中には大きな 問題も含まれていると思えますが上 木先生のお考えは。

上木 そうですね。日本の音楽とい うのは非常に個性の強いものなので ……

遠藤 その伝統を崩すということは 避けて欲しいと思えます。以前邦楽 器との合奏で洋楽的なことをやって いるのを見て腹立たしく思ったこと があります。芸大でも作曲科の作品 を演奏する機会が度々ありますが、 記譜法や奏法を知らないのではない かと考えるような作品があります。

洋楽で云えばベートーベン・ブラー ムスはバイブル的な作品だけれど、 それも受け入れないで自分だけの世 界に閉じ込めて書いている。無意 味な変拍子とか、スラーを書きいっ ておけばすむのにフレージングの最後に四分 休符を書いたりする。おおよそ気持ち から出て来たものではなく、机の上 で頭の計算だけで書いている。作曲 家を志す者は、それぞれの楽器や奏 法について勉強し、体験して欲しい。 そういう人が出て来て初めていろん な分野の邦楽器と一緒にした合奏曲 が出来るのだと思えます。

邦楽の学生はしつけが良 い。芸大定演に初めてアン コールを用意。

遠藤 ともかく今回の体験は私にと っても大変面白かったです。学生 たちも可愛いし、しつけが出来てい ると思つたのは練習中に茶托にのせ たお茶をお盆に入れてもって来てく れたことです。そんなこととして貰っ たことがないので(笑)。テレビや っで、でもとても気持ち良かったの です。気分ものって来たので、差 出がましいとは思いましたがアンコ ール曲に「中国地方の子守歌」を自 分で編曲して用意してあるのです。

上木 今日のお客様は、集団のお客様 様と違って古典的なお客様ですから アンコールをしてくれないのではな いかと心配しています。

——いつもはアンコールはされるの ですか。

上木 ないです。日本のものという のは、それこそ歌舞伎で猿之助さん

のカーテンコールが初めてというく らいでアンコールの習慣は全くござ いません。

遠藤 それは集団でも田村さんがい つもやられているけれど、指揮者の 歩き方などである程度拍手を呼ぶこ とが出来るものです。

矢崎 私の師が洋楽をやっていますけ ど、どうして邦楽のお客様はアンコ ールしないの、終ると我先にと帰る ことばかり考えている。つめたいわ ね」と云います。

——段切れを持たずに身支度をする という感じですね。

遠藤 洋楽のお客様も、もう一曲お まけにやらせたほうが得だという拍 手もすることがある(笑)

上木 それと、もうたくさんなんだ けど習慣的に拍手しなければ悪いか らというのがありますね(笑)

矢崎 音楽全体を聴くのではなく、 部分というか、あの人の演奏はどう いう風に弾くのかという聴き方、見 方をしていて、そこが終ればもう帰 ってもいいんだというような…。

遠藤 惜越だけど演奏会の帰り道で お客様がアンコールの「中国地方の 子守歌」を口ずさんでいれば成功だ と思えます。本来は定演ではアンコ ールはしなくても良いものなんです が、やはりお客様に對するサービス 精神は必要だと思えます。

——集団でもできるだけやるように しています。押しつけではなく、心 から音楽や演奏に感動して出て来た 拍手になるように演奏家側としては 頑張らなくてはならないと思えます。

遠藤先生がエンビ姿で出てこられて、 カーテンコールなどのアクションを されると、お客様もだんだんと慣れ てくるでしょうし、お客様を育てる ことにもなるわけですね。

——その道の大先輩として矢崎先生 のご感想をあらためてお聞かせ頂い ませんか。

矢崎 30年位前から現代邦楽に取組 んで来ましたが、今回のように 学生が新しい合奏曲にも取組んで世 の中に出てくれることは嬉しいこと だと思つてひとしおの感慨をもつて います。私たちは本当に手探りで、 四苦八苦でやっていますでしたが、今 の人たちはすぐ順応できるし、作曲家 の先生も邦楽には仲々書いてくださ らなかったんですけど、今は積極 的に書いてくださる方が増えたこと は嬉しいことです。

あとがき

本番を後にひかえてのあわたたしい 時間ではあったが、邦楽界や芸大の 発展につながるような積極的な話や 考えを伺うことが出来たのは有意義 だった。日本の音楽界の発展と音楽 大学の発展とは不即不離の関係にあ ることを考えれば、今後のより一層 の交流によって何らかの道は開かれ る思いがした。

最後に「デイヴエ」の本番は、遠藤 先生の今回のためにわざわざ新調し たというエンビ服とともに、初々し く、実に風爽と演奏され、アンコー ルも予定通り行なわれたことを報告 して終ることにする。

文責 田村拓男

第96回定期演奏会に、 豪華ゲスト登場!!

委嘱作品「タクシムTAQSIM」を 書き下ろす鬼才・間宮芳生氏

MESSAGE

日本音楽集団の定期演奏会の為の作品を書くチャンス
を、心から嬉しく思います。

集団が日本の伝統音楽の現代化と、
新しい可能性の発見とに取組んでき
た活動を、更に発展させていられる
ことを念じてこの曲を書きました。
これからは他の分野、例えば洋楽の
楽器、声の音楽の諸分野、子供たち
等との共演の機会をさらに積極的に
求める事、そしてその様な分野を超
えた新しい作品の創造を推進してい
かれることを期待します。

私の作品には人間の声の原形にあ
りますが、「タクシム」の演奏にあた
っても、器楽の演奏の奥に声がか
えるような、また、楽譜の背後に書
かれているもの、間合いといったも
のを出してほしいと思います。



フザンソン指揮者コンクール 優勝に輝く松尾葉子氏

PROFILE

名古屋に生まれ、四歳よりピアノを始め一九七一年お茶の水女子大学教育学部音楽科入学。三
年の時学園祭でオペラを指揮したことから指揮に興味を持ち、七五年同大学卒業と同時に東京芸大指揮科に入学。
七九年同大学院に進み、一年間群馬交響楽団で指揮の実習を行う。

一九八一年フランスに留学。パリ・エコール・ノルマルにてピエール・デルグーオー氏に師事。翌八二年、フザンソ
ン指揮者コンクールで女性として史上初、また日本人として小澤征賢に次ぎ二人目の優勝という壮挙により一躍注
目を集めた。

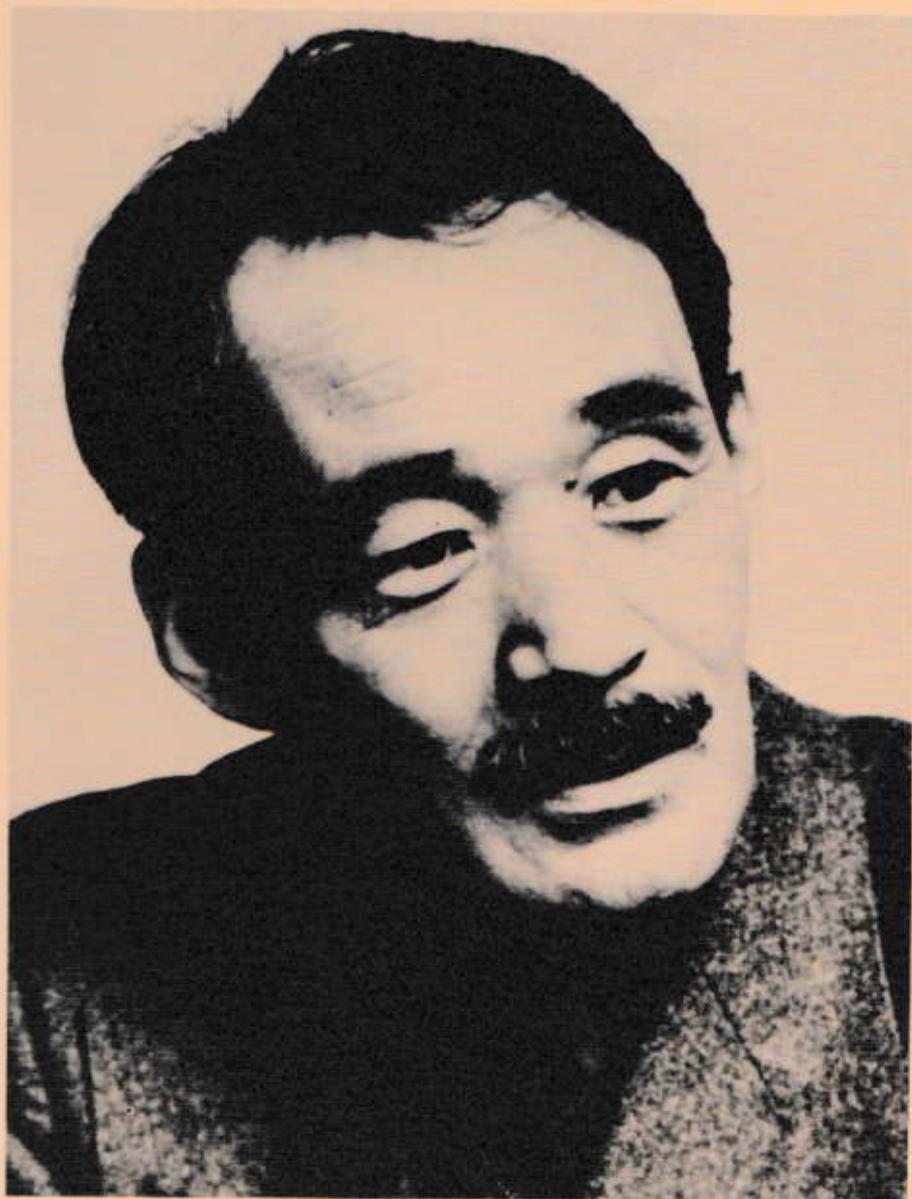
帰国後、名古屋フィルを指揮して故郷にデビュー。NHK、若い芽のコンサートでNHK交響楽団を指揮し絶賛
を博した。以後、女性だけのオーケストラ「レディス・オーケストラ・ジャパン」二期会「メリー・ワイドー」オ
ペレッタの名花、メラニー・ホリデイと共演など話題の演奏会をはじめ、東京交響楽団、新日本フィル、読売日本
交響楽団、日本フィル、新星日本交響楽団、群馬交響楽団、大阪フィルなどを次々と指揮して高い評価を得ている。
一九八五年秋には文化庁移動芸術祭、関西二期会公演「メリー・ワイドー」を指揮。パリ・シャンゼリゼ劇場でラ
ムール管弦楽団を指揮するなど、海外での活躍も大いに期待されている。

MESSAGE

新聞、論評等で音

楽集団の活動を拝見していましたが、
今回の定期演奏会を指揮するにあたり、
曲が現代曲であることに大変興味
を持っていました。私の中では、楽
器より、音符の方が光にあり、
それから楽器の音色、演奏の方法を
追求したいと考えていますので、特
に邦楽器ということに拘りませんし、
かえってオーケストラよりも、棒が
自由ではないかと思えます。

「古代舞曲によるバラフレーズ」の
ヴォーカリーズは、現代曲に「声」
をとり入れている点で特に注目して
います。もう一つ、間宮氏の委嘱作
品「タクシム」は、他の三作曲家と
少し違った作風だろうと、心から楽
しみにしています。



「日本の伝統音楽を正確に楽譜で残す方法が理論的に完成していない」

中国・内モンゴルに、オルテン・ドーと呼ばれる歌の形式がある。これは「長い歌」という意味で、一息で長いフレーズを歌うものである。これに対して、短いフレーズを繰り返

して歌うものをボゲン・ドー（短い歌）と呼ぶ。前者は羊や馬を追うようなところから発生したもので、後者は踊りなどに使用されるものである。このオルテン・ドー（長い歌）の

なかに、ジヨロニージロという歌があつて、この歌は日本の江差追分と区別出来ぬ程に類似している。この歌は遊牧民族のあいだによくみられるもので、羊や馬を追うときに歌わ

れるものである。江差追分との類似については諸説あるのだが、小生は次の説を支持している。
日本に馬や羊が入ったのはモンゴルからであるが、馬を移動して来た

際、多分數人の馬方が同行してき
た。その馬方が馬を動かすときに、
いつも自分達が馬を追う際にうたう
歌をうたった。これを見た日本の馬
受取人が、こうすれば馬が動くと思
えたのであろう。それが日本の馬追
い歌に受け継がれ、小諸馬子歌の原
形を作ったと考えられる。この小諸
馬子歌は新潟から海路で江差に流れ、
江差追分として現存している訳である。

さて話はとぶが、トルコという国
がある。この国はモンゴロイド系統
に属する民族と言われ、十一世紀に
はモンゴルのイル汗国の属国になっ
た事もあり、食べ物では兩國ともシ
シケパブリーがあったり、ジンギスと
いう名前が多かったりで、非常に類
似点が多い。

この国の民謡に、ウズン・ハワ（長
い歌）とクルク・ハワ（割れた
歌）というものがあり、これはモン
ゴルの前述した歌の形式と全く同じ
である。このウンズ・ハワのなかの
ボストラックは伝統的な遊牧生活をし
て居た人々に残されているもので、
羊や馬を追う際に歌われる。この歌
がこれまた江差追分と真に類似して
いるのである。

この三曲に共通するものは、一息
で長い節を歌うことと、最初に思
きり声を張り上げて一本調子に歌詞
を歌い、後は母音で旋律を揺らしな
がら急激に下におりてくる。これは
「最古の旋律型」と呼ばれるもので、
「呼ぶ」「追う」というような場合の歌
に多い。

この三曲は何等かの因果関係で結

ばれている事は充分考えられること
で、歌が人間と共に移動していくも
のだという事がわかる。

さて、小生がここで述べたい事は
この三曲の事ではない。このモンゴ
ルから発生した歌が日本とトルコで
どのように保存されているかの問題
なのである。

現在世界で使用している12の音階
では、この三曲は歌う事が出来ない。
何故ならば、これらの歌は平均律な
どが出来た前から存在していたもの
であるし、平均律は便宜上人間が後
から考えたものであるからである。

この音階理論は古くはギリシャの
ピタゴラスまで遡らなければならな
いが、本旨ではないので省略するが、
トルコ音楽はベルシヤ音楽、アラビ
ア音楽と経過してオスマン・トルコ
時代に完成したもので、平均律で御
説明すると、CとDの間に9つの音
がある。この論理でいくと54音階と
いうわけである。

これは古代中国にも84調理論もあ
ったぐらいで、昔から数学者、音楽家
が悩み苦しんで来た問題なのである。

このトルコに残された民謡は、12
音階ではうたえない。もちろん江差
追分も平均律では歌えるわけではない
のである。ピアノで江差追分が弾け
ない事はおわかりかと思う。

トルコは第一次大戦後、ムスタフ
ア・ケマルを大統領として共和国と
なった。そのときにこの大統領は、
様々な改革をしたが、最も目を見張

る事は音楽改革であった。古典音楽
と現代平均律の共存のために、巨匠
ヒンデミット、現代音楽の先駆者バ
ルトークという音楽学識者を自国に
招き、今後のトルコ音楽の在りかた
について助言を求めたのである。

この結果バルトークは民族音楽保
存を重視し、平均律とも共存出来る
方法として32分割方を考え、これを
トルコに残したのである。勿論記号
もつくりあげたのである。

それであるから、前述したトルコ
の民謡ボストラックは楽譜として存在
し、正確に残されているわけである。
それにひきかえ江差追分は、名人
伝承歌であって、伝承者が間違えれ
ば、生涯間違ったものが残されてい
くわけである。

日本も明治維新に同じ事考えた。
明治初年、音楽取調掛が発足し、雅
楽・民謡・和楽音楽を取り入
れた日本が、平均律の12音律を取り入
れるために、伊沢修二・神津専三郎
を外国に派遣し研究をさせた。この
結果、現在のドレミの12音律が日本
に根づくことができた。

しかし、問題はこの処理方法である。
日本に古来からある伝統的音楽は、
忘れ去られたのである。そして日本
はドイツ音楽一辺倒に走って行くの
である。そして恐ろしい事には、ペー
トローベン、モーツァルトの古典を守
る事が芸術と間違えたのである。
ペトローベンの芸術はドイツが守
るべきで、歌舞伎をアメリカが守る

などと言いだしたら、絶対に馬鹿に
する人達が、公然とペトローベンを
守る交響楽団を当然とし、それを芸
術の真髄と考えているのである。

日本人はペトローベンを守るので
はなく、日本に残された伝統音楽を
守らなければならないのは当然の事
である。

日本の和楽も民謡も、正確に楽譜
で残す方法が理論的に完成していな
い。なぜなら共存を考える人が居な
かったからである。

伝統取得者は名人芸に固執し、ワ
ビダのサビなどと精神論に終始して、
理論化を考えなかった。いや、考える
事が不利だと考えたからに違いない。

そして明治初年に12音律を取り入
れたときに、その専門家を招かず、日
本人だけで出来ると思った思いが
りか今日の日本音楽の姿なのである。

反対される方もおられるかもしれ
ない。しかし、日本の小学校で一度
でも日本音楽を教える学校はない。
教えてもらえないものを理解しろと
いうのも無理だし、聞きに来る人が
少ないのは自然の成り行きだと小生
は思う。

小生は日本音楽が好きである。そ
れだけに邦楽界の方々に切に望みた
い。それは、日本の伝統音楽をいか
に理論的に残し、千年後にでも、正
確に再現できることを考えて頂きた
い。これは全ての分野に必要と思わ
れるし、今やらなければ時期を逸す
るとおもう。

明治初年のツケがいま廻ってきた
訳である。

対談

BIG DIALOGUE



「コマースシャルで、箏の売り上げがあがったんだそうです。」

沢井忠夫



菊花咲く月、演奏家として舞台上に
TVに、又、作曲家として活躍し、
沢井合奏団、沢井箏曲院と、若手の
育成にも精力を注ぐ沢井忠夫氏と作
曲家長沢勝俊氏との対話が双方の多
忙なスケジュールの合間をぬって大
阪で実現した。

糸にたくして

長沢 本日はお忙しい中、お時間を
いただきありがとうございます。

沢井 先生には以前、「萌春」を演奏
させていただいた時に、うちまでお
いでいただいたことがございました。
長沢 あれは、だいぶ前ですね。尺
八はどなたでしたか。

沢井 僕のリサイタルの時で、尺八
は宮田さんでした。一回ステージで
演奏して、二回とも宮田さんでした。
一回目は、僕のリサイタルでなんと
かうまくいった様な気がしますが、
二回目は大失敗してしまつて、落ち
込んでしまったのを覚えてています。

長沢 弾きにくいんでしょう。手が
こんでいるから。レコーディングの
時は、尺八は山本邦山さんでした。
沢井 ええ、レコーディングの時は
邦山さんとて、わりと落ちついてや
れたんです。やはり、ステージはこ
わいし、そう思うからよけいになつ
てしまいうまく弾くことがなかなか
ないですね。

長沢 ご自分の曲の場合は？
沢井 同じですね。

長沢 そうですか。たくさん作曲な
さつておられると思いますが、箏の

「火垂る」II、「石筋」そして「情
景三章」これもきれいな曲ですね。

洋楽の勉強されているでしょう。モ
テイトフをきくと、その展開がみえ
たり、それがユニークですね。演奏
家としての即興性、内面的なものを
含む技術の追求がみられますね。

沢井 先生の曲は弾くのは難しいん
ですが、聴いていると気持ちが和ら
ぎ、和らぎながら興奮する感じがあ
り好きなんです。

長沢 先日、現代の箏曲ベスト30で沢
井合奏団が演奏してくださった「箏
四重奏曲」、現代的でスピードデー
すつきりしていて、目を見張るもの
をアンサンブルに感じました。それ
から、僕は集団でレコードにさせて
いただいた「春三題」の沢井さんの
三絃が好きなんです。

沢井 あの曲も気持ちがいいですね。
三楽章は地歌でスピード感が出しに
くく難しいですが、一、二楽章は快
よくいけるんです。

小さい会場 大きな会場

長沢 先日、御案内いただきました
が、この演奏会は、八回シリーズで
二年にわたるといふ随分長期的展望
でなさってますね。

沢井 小さなスペースで、ソロを含
めた小編成の曲を身近なところで音
楽したいという気持ちも、それなら
丁度、うちで作ったスタジオを利用

してみようと思いついたんです。

長沢 お宅のスタジオ。いいですね。
今、小さな会場とするのはやって
ますね。音楽集団でも原宿のアコス
タデイオ。日フィルの赤星さんがお
作りになったところですが、音が良
く、きれいで、定期的にサロンコン
サートを催させていただいてます。

沢井 広い会場はたまたま音響が良
くとも視覚的に遠いのに比べ、小さ
いところでは、手の震えまで見え、初
めは緊張しますが、慣れてくると、
気持ちが向上して良い音楽が創れる
ような気がします。失敗してもあと
味がいいですね。

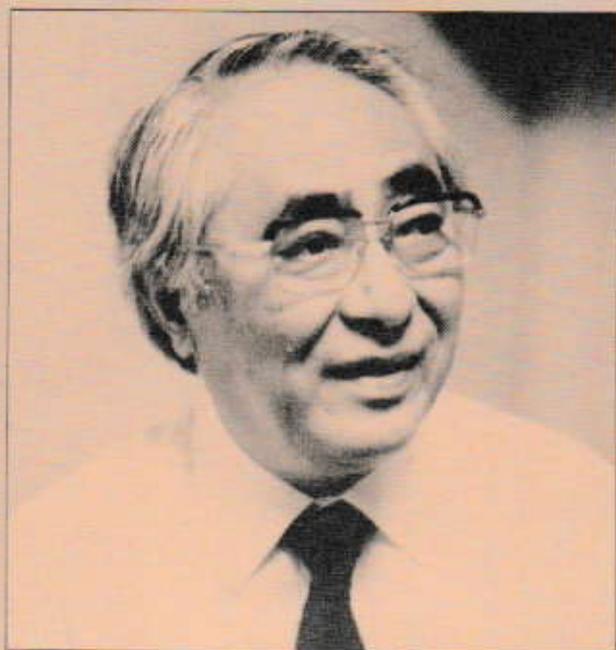
現代邦楽ブームと マスコミと

長沢 ところで、現代邦楽との出会
い。というか、いつ頃から演奏され
ていますか。

沢井 僕には、その境がよくわから
ないんです。強いて言えば、芸大卒
業後、NHKの「邦楽現代」の時間
に委嘱作品のいくつかを初演させて
いただいたことでしょうか。あの頃
はNHKが、たくさん委嘱してまし
たね。

長沢 そうなんです。「箏四重奏曲」
もそうでした。ブームには終りがあ
ると言いますが、新しい種を育てた
いですね。

沢井 番組が増えれば、活気がでて
くると思うのですが、減ってきてる
し……。NHKは日本の放送局だし、
十五分でも毎日あればね。



長沢勝俊

「ほう、そうですか。マスコミの力はやはり大きいですね。」

長沢 現代邦楽と大げさに構えずにね。

沢井 それと、ジャンルを固定せずに、種々のジャンルの曲を聴かせる番組があれば。好きなジャンルの番組を聴くというより、聴きたくない人にも聴かせてしまう様な番組ね。なぜかと言うと、僕のホームページ見たくなくともTVをつけていると出てくるんですよ。あれで、筆を知らなかった人もいるし、ある琴屋さんの話だと、筆の売り上げが上がったんだそうです。

長沢 ほう、そうですか(笑)。マスコミの力はやはり大きいですね。

古典と現代曲

長沢 若手の演奏家の技術も向上していますが、古典についてはどうでしょう。

沢井 古典を弾けない人が増えてきていますね。それでも、無理矢理でもしている、だんだんにおもしろみがわかってくるみたいですね。先程の演奏会のはかに、古典三昧、というのを同じスタジオでしています。たくさんは聴けないから一日三曲ぐらいですが。

長沢 古典の演奏家の中には、型を重視する人もいますが。

沢井 僕は型にこだわらず自分なりの解釈をしています。現代人の感覚による演奏、現代に合った解釈でなければ、次の世代につながっていかないと思います。

長沢 古典も昔は現代曲だったわけ

ですしね。

沢井 そうです。だから作曲するにしても、脈々と流れる。伝統が背景にあるからだし、この時代の曲を作らなければ、その音楽は死に、博物館入りしてしまうと思います。

長沢 演奏家、作曲家相互に触れ合いながら音楽を創っていくかなければならないですね。

沢井 ええ。それには、作曲もする人は、自作だけでなく多くの人の作品を演奏すべくして、それが糧になり、音楽が自分の中で育つように思います。僕もそれをこころがけてます。

種を蒔き 芽を育てる

長沢 お忙しいと思いますが、筆曲院、合奏団の運営にエネルギーをさいておられますか。

沢井 なかなかですね。一番時間を取られるのは、教える。ことですね。これがなければ余裕が持てると思うのですが、教えることは自分自身の勉強にもなり培って難いですね。今まで、演奏家の若手を育てる目的できましたが、もうひとつ向うの若い人、つまり、子供を育てなければ将来大変な事になるとい気がして、子供達を引き出す企画を昔々まで考えようと、うちうちでは話しています。

長沢 うーん。重要なことですね。僕は一昨年、去年と行ったんですが、福山の小、中学生のコンクール。あの様なものが、合唱コンクールなど

のように全国的規模で行なわれることが必要だし、教育関係者や楽器屋さんのその為の物心両面からの協力、援助をもとめたいですね。若い才能は育てなければね。

交流の場を

長沢 音楽集団では、今回、中国地方公演、大阪公演を行なうに当たって、二本穂の「古代舞曲によるパラフレイズ」のヴォカリーズを地元の方に御願いしたんです。昨年は、熊本で、古川社中らと児童合唱団ともやりましてね。すると、出演してくださった方も喜ばれたし、お客さんも応援して下さい、地域の邦楽関係者の他に洋楽の方とも交流を計れた様に思っています。東京でも、流派とかにこだわらずに合奏できればおもしろいですね。

沢井 うーん。それもおもしろいですね。

長沢 互いに触れ合う場を設け、演奏交流することが、この時期、業界の発展につながるし、次世代へと芽を育て、手渡すことになるでしょうね。ところで、音楽集団は来年度期演奏会百回を迎えることになり、来春から記念特集を組むつもりです。結成二十二年、その軌跡をたどると共に、現代、未来へと発展するものにしたいたい企画中です。

沢井 もう二十二年になりますか。おもしろい企画を期待致します。

現代邦楽事情

東京を中心に

演奏家へのインタビュやコンサートに出向いて感じられる、現代邦楽の最近の動向を思いつくままに列記してみたい。

●現代邦楽の整理時期●

ここ一、二年のコンサート活動をしてみると、現代邦楽の「名曲鑑賞」的な会がとて多い。こういう企画ものは国立劇場のお株だったが、最近はお個人のリサイタルでも頻繁に取り上げられるようになった。過去三十年間くらいの作品の中から、めばしい曲を取り上げて舞台にのせるといふものだが、このことは即ち、現代邦楽の整理を意味していると思う。逆に言えば、洋楽系作曲家への委嘱作品数が少なくなったということである。

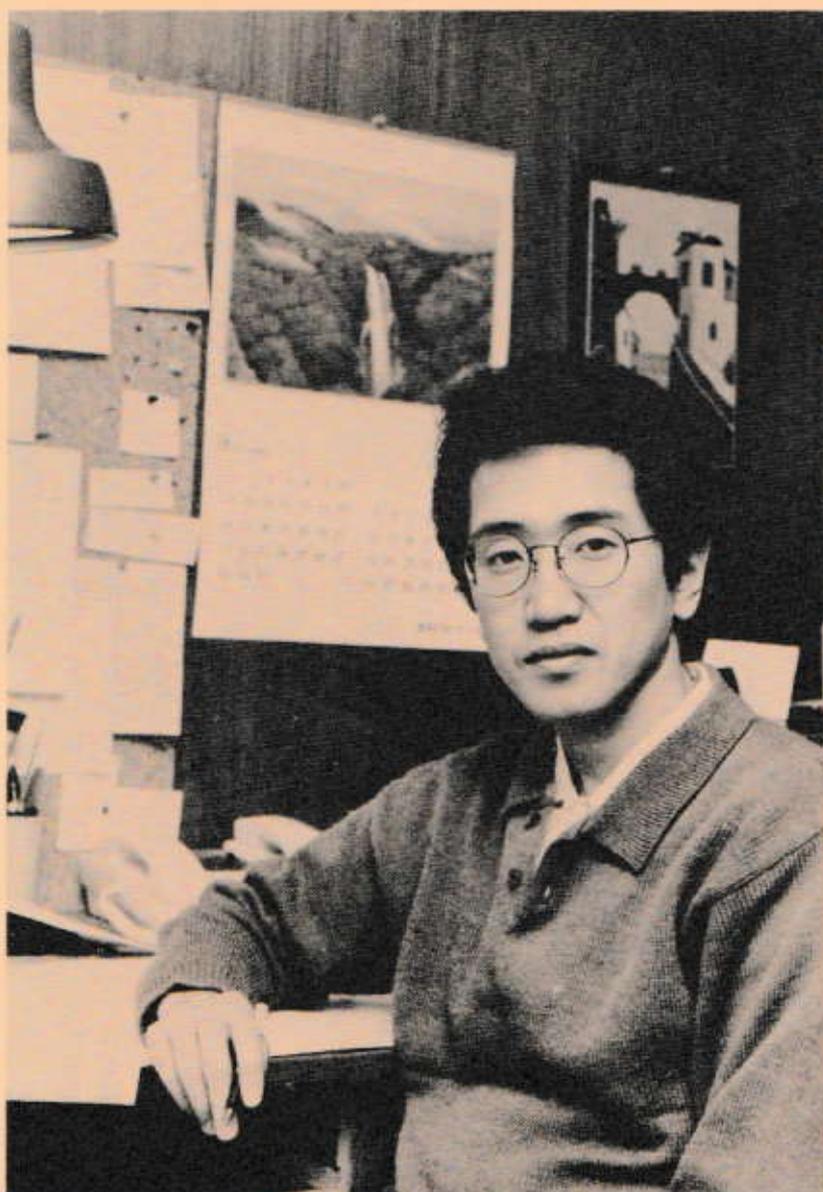
最近のコンサートから、この企画ものを拾ってみると、国立劇場主催の「現代日本音楽の展開」(6・20)、昨年十一月から一年間四回シリーズで始まった砂時知子の「現代の華曲」(3)(同じく6・20)、「三橋貴風・吉

村七重ジョイントリサイタル」(7・17)、昨年十二月から二年間八回シリーズで始まった沢井忠夫大合奏団の「華曲NOW名曲演奏会(3)」(7・21)、他にもまだあったと思う。

ちなみに、これらの会で頻繁に取り上げられる「名曲」に牧野由多可作曲「茉莉花」(S39)、松村植三作曲「詩曲1」(S42)、入野義朗作曲「尺八と箏の協奏的三重奏」(S44)、他がある。特に入野の「尺八と箏の三重奏」は「流行」と思わせる程の演奏回数だ。この難解な曲を五月から九月までのリサイタルの中で、青木鈴壽——上條妙子(5日発売NHKカセット)、横山勝也——羽賀幹子(6・13音友ホール)、川村泰山——砂時知子(6・20スタジオ200)、「三橋貴風——沢井忠夫(7・21スタジオE.S.)、古屋輝夫——大成道子(9・26三井生命ホール)」と五組の違った演奏を聴くことができた。興味深い現象だ。

●ミニコンサートの流行●
企画もののコンサートが多くなっ

邦楽ジャーナル主幹 田中 隆文



邦楽 ジャーナル

雑誌や電波に乗って情報が氾濫するご時世ですが、こと「邦楽」となると、その情報の入手は困難をきわめます。おそらくロコミとチラシに頼っているのが現実でしょう。コンサートの限らず、オーディションやコンクールの受け付け、合奏団の団員募集、邦楽器商組合の活動などもあまり知られていません。

この雑誌は尺八と箏の音楽を中心に、ナマの情報を全国から集めてビジュアルに提供します。

INFORMATION AND ARTS MUSIC NOW INFORMATION MAGAZINE

- ▼きめ細かい確かな情報▲
- コンサート情報 / ライフ情報
- ラジオ・テレビ情報 / 団体情報 / 時事的情報
- ▼シリーズで追う身近な記事▲
- 潜入ルポ / 楽器の基礎知識 / 楽器造りの現場
- 邦楽と教育界 / 今月の問題点 / クロスオーバー



フォーカス判・20ページ
 予価300円(送料50円)
 年間講読=4200円、
 半年講読=2100円(送料別)

発行 / 田中家
 〒160 東京都新宿区高田馬場3-39-9
 グリーンハイツ202 ☎03-380-1329

てきたことも最近の傾向だ。特に、講演付き。いわゆるレクチャーコンサートはよく見かける。現在、シリーズで続いているものとしては、先に述べた砂崎演奏・平野健次講演の「現代の箏曲」、中井猛の解説を間に挟んだ「古曲三昧」(スタジオE.S.)がそうである。大きな会場では、国立劇場・東京文化会館・朝日ホールなどで、吉川英史・諸井誠・小島美子といった研究者たちが講演をしていた。演奏家の十八番をただ羅列して聴かせるのではなく、プログラムに工夫を凝らした演奏会が多くなってきたと思う。

「P」の専売特許だった小ホールが、わかには注目され始めた。これには大きな意味があると思う。

一に言えることは、演奏家が気軽な、肩ひじ張らない演奏の場を求めると同時に、音楽を通して聴衆との心の接点を求めようとしていることだ。聴衆と同じ平面で、しかも間近に接することは、聴く側に楽器の生の音の震動と、演奏家の息遣いを通して、大ホールにはない緊迫感を肌で感じてもらおうことができる。

例をあげるとスタジオE.S.の沢井、スタジオOの砂崎、原宿アコースタジオの「集団サロコンコンサート」、同じくアコースタジオの「尺八1979オブリジナルコンサート」、ジャンジャンでの種々な会などがそうである。

米場する客層や、聴衆との心の触

れあいという点で、大ホールの演奏会に疑問を感じるという野坂恵子は、地方のミニホール五十ヶ所をライブ活動を始めた。同じように邦楽畑以外の人を小会場に集めて箏のすばらしさを訴えようとする沢井一忠の「箏遊行」は、全国津々浦々、すでに五十ヶ所を超えている。演奏内容は違っても、邦楽の普及を考えた時、両者ともに会場を小さく選び、しかも採算を度外視した地方での演奏という点で一致を見たことは、今までにない大きな動きと言えるのではないか。

今、演奏家も聴衆も、本物を見出そうとしている。本当に良い音楽、心に残る会を求めて、より自由な活動が展開されていくように思う。

—打楽器のエンターティナー、堅田啓輝の世界—

12月21日発売

「冥王 MEIO」

収録曲 ● Carna (カーナ) 鈴巻・ともし火にはせて・冥王
 共演者 ● 佐藤允彦(ピアノ)・芝祐靖(電笛)・藤倉華鳳(打楽器)

コンパクトディスク 3,000円 300Y-1317
 カセットテープ 2,500円 04Y-9130

日本コロムビア株式会社 DENON

日本古来の楽器“箏”の現代における可能性を追求し 新しい世界を切り開いた——吉村七重 会心のアルバム!!

西村 朗が彼女に捧げたタクシムをはじめ、現代日本の代表的作曲家による意欲的な作品を集めた話題盤です。



【デジタルレコーディング】
 LP/CMT-1100 ¥2,800

邦楽器の新しい展開“箏”

タクシム

——事実、吉村の演奏によってこれらの曲は、その最高の表現を得、ほとんど日本の自然の無言のなかにそのよきそのが場所を待たせようと思われ、吉村はこのレコードでは自然の女神なのである。
 ——【鳥居一雄、ライナーノーツより】

1. タクシム(西村 朗)
2. 双鱼譜(西村 朗)——尺八と 七弦のための四つの古典的風情
 宇の魚——波の魚——鱈の魚——魚
3. 結の目——箏タクシムのための しんさい 森よ
4. 秋の夜(池田 敏) 吉村七重(二重奏)
 三橋貞美(尺八)・毛利治郎(チェロ)

発売元: カメラータウキョウ

〒150 東京都渋谷区神宮寺5-50-6 青山テックスタ8F TEL.03 438 5890

●カメラータの録音は、RDC(デジタルレコーディング)によるデジタルレコーディングで収録されています。これまでに収録されたことのない高音域と一音階の精度が特徴です。また、RDCによる録音は、高音域の再現性も高いです。



野口 美恵子

「宮下伸・箏・30絃の世界」を訪ねて

泉の里コンサートザール演奏会
 (宮下伸・箏・30絃の世界) (九月十四日)を訪ねた。会場の泉の里コンサートザールは国分寺にあり、東海大学教授を退官された古田徳郎氏が私財を投じて作られたキャバ80の、落ちついたきれいな小ホール。プログラムは「飛翔」「30絃独奏のためのメッセージ」「琉歌」「八千代獅子変奏曲」「30絃と箏による歌唱」で、宮下氏自身の作品。緊張感に溢れ、目を閉じて、力強く時にはやさしく可憐に奏でる宮下氏の30絃箏の音は美しく響く。楽しい話を交えながらの演奏会で「稽古中父から「音楽は体で覚えるもので、楽譜を見て

ひくものではない」と燈りを消され、「暗闇者は不便なものだ」といわれた」という話が印象的だった。懐の大きな温かい宮下氏の人柄に、心が安らぐ。

田辺尚雄氏からは「宮下君のお父さんから仲君を預けられ、仲人もしており応援している」とのお話があり、30絃の独奏や合奏もあって、楽しいひとときを過ごした。(出演/宮下伸、高田秀登、尾崎秀美芳、谷口秀桜花)

国立劇場 邦楽鑑賞教室

国立劇場邦楽鑑賞教室(九月二十日)を聴いた。へ日本音楽の形式とリズム)、お話、徳丸吉彦(お茶の水女子大学教授)全体は(第一部・解説/楽曲の形式——序破急や段構造など)。(第二部・座談会/演奏におけるリズム感——間やノリなど)

(第三部・実演による名曲鑑賞)

という考え方をとるというものだった。これに対し、一定の周期的なくり返しがリズムの本質という考え方は誤りで、もしそうだとするならば、日本(西洋も)の音楽の中には、リズムのない音楽を認めなければならなくなるということだった。その後、リズムと混同されやすいパルス(脈拍のように強さと間隔が一定な刺激の連続で、例えば、尺八本曲はパルスがないままでリズムがある)の話や、雅楽の「早四拍子」をテープとスライドで分析した。

次の楽曲形式では、中世音楽の特色の一つである(八段物)の、(箏曲)六段の調)をとりあげた。この曲は、六つの段がながって一つの曲を構成しているもので、一つ一つの段が(五十二小節(百四拍)の構成だが、初段のみはじめに二小節多い。それを、それぞれの段の出だしをそれぞれ(初段は三小節目から、同時に六人で合奏したテープをきいた。六段の調)とは分ならず、現代的でとも面白かった。

次に室内様式として育った三曲(地歌・箏曲)に対し、劇場様式として育った三味線音楽の長唄や義太夫などをとりあげた。これらは演劇的な必要性から音楽様式が決定される度合が強く、一つの例として、長唄の(京鹿子娘道成寺)が素の演奏と舞踊の伴奏用と対比して実演された。「へふつつり格気せまいぞと、たしなんでみてもオオオ」のオオオが、実際には踊手がいないのに振りに合わせたりもたつぷり伸びて演奏されると、場内爆笑。徳丸氏の試みは

息をぬらう」と応えられ、なごやかなうちに座談会も終わった。次の名曲鑑賞では、ささほどの座談会での出演者の人柄を感じつつ、三曲「四季の踊」と長唄「吾妻八景」を鑑賞した。

企画の緻密さ、知的な内容、徳丸氏の柔軟な思考と面白い話に、新たな視野がひらける思いで帰路について。(出演・箏/米川敏子、米川文勝之、尺八/山口五郎、唄/今藤文子、芳村伊四郎、今藤郁子、三味線/田島佳子、高橋尚子、(上調子)村屋五三遊)

泉ピン子さんを見舞う

小さいころからの親友である泉ピン子さん(女優)のお宅を、久しぶりに訪問した。激しく転ぶシーンを撮影のとき右肩を骨折した彼女をお見舞うために、それにしても、ほんとうに彼女らしい。体当りのパイタリタイには感服する。

彼女は、チェロのヨーヨーマのコンバクトディスクをかけてくれながら、八月にニューヨークで彼のチェロを聴き感激したことや、ブロードウェイのヘンク・アンド・ダンス)を観て、歌って踊れる俳優たちに感銘をうけたこと、パイロイト音楽祭の話などを、熱っぽく語る。「私は、セリフは音楽と同じように音と間が大切だと思ふの。一人の人間がもちと持っているニュアンスって、そんなに多くないはず。いろんな人に刺戟され、本物やそうでないものも観たり聴いたりして、音の色あい

ぼんげん抄

Oh!脳

何をかくそう私が宗家(総毛)の黒髪望である。

まずは前号で約束した、スーパーマリオブラザーズの全面攻略に成功した読者の栄誉を称えようと思うのだが、やればやる程デイスクステムに熱中している諸君には阿呆らしいのか、真面目に名前を寄せてくれたのは次の二名だけであった。

- 野口大祐(小学五年)
- 皆川英生(会社社長)
- これだけでは誌面が寂しいので、団員からも名前を載せて勝手に称えるから喜ぶように。
- 堅田啓輝(打楽器)
- 黒坂 昇(打楽器)
- 加藤 洋(三味線)
- 滝田美智子(箏)
- 以上全員に(松)と、宗家の名前を一文宇とった師範名を授けるので有難く受けてほしい。
- 野黒口大祐、皆川英生、堅田啓輝、黒坂昇、加藤洋、滝田美智子
- それでは稽古に入るとしよう。今回のテーマは「脳」である。
- 脳が健康でない限り、ほん酢



て構成されてきた。
徳丸氏は、リズムという外来の言葉をもそのまま日本音楽にあてはめて理解するのはなく、西洋の音楽にも日本の音楽にも共通する特性によってリズムという言葉を定義された。それは、音や音のかたまりを「グルーピング化」することがリズムの本質だ

らに核心をさぐり、「八尺八と筆」や「唄と三味線」が合奏の時の不即不離の状態や、出の合図の話になった。「やりやすいお相手とそうでない方は、どういううちがいがありますか」と演奏者に質問されると、思わず笑われながら「唄に合わせすぎていけない」「出だしは心を通わせあつて

蓄え工夫していく。俳優の作業と三味線を弾くことは同じだと思ふ。今、音に挑戦しているの。これからお互いにいい刺激をしようね」と話は尽きない。
つもる話の後、日本音楽集団がヨーロッパと共演したレコードのプレゼントを約束して、別れた。

【日本音楽集団51年86年の主な活動記録】

【日本音楽集団及び団員等の今後の予定】

5月10日(土) 中学生対象のヤング・ビーブルス・コンサート
5月11日(日) 虎ノ門ホール
現代日本音楽フェスティバル'86に出演
名古屋芸術創造センター
6月2日(月) 7日(土) 高松市中学校巡回学校公演
6月5日(木) 松江市アラバホール桶落しに日本音楽集団演奏
松江市総合文化センター
6月6日(金) 米子労働会館で日本音楽集団演奏
6月9日(月) 12日(木) 長崎県巡回学校公演
6月24日(木)・25日(金) 山形県下で高校鑑賞会
山形市民会館他
6月26日(木) 第94回定期演奏会
芝あび会館ホール
6月30日(月) 佐原女子高校鑑賞会
7月7日(月) 第7回サロコンコンサート
アコスタジオ
7月10日(木) 芝植崎「道の会」に出演
イイノホール
7月14日(月) 16日(水) 山形県巡回学校公演
8月31日(日) いわき市市制20周年記念行事に出演
9月4日(木)

和歌山県民文化祭オーフェニングに出演
和歌山県民文化会館
9月7日(日) 12日(金) 秋田県巡回学校公演
9月17日(水) 上越市中学校鑑賞会
上越文化会館
9月18日(木) 第95回定期演奏会
芝あび会館ホール
9月24日(水) 27日(土) 鳥取県巡回学校公演
9月26日(金) 10月4日 一九八六年度日本音楽集団地方公演(中国地方) 9月26日米子・27日鳥取・29日出雲・30日益田・10月1日日原・2日下関・3日岡山・4日津山)
9月30日(火) 益田高校鑑賞会
石西県民文化会館
10月2日(木) 文洋中・名隆中鑑賞会
下関市民会館
10月6日(月) 第12回関西定期演奏会
大阪郵便貯金会館ホール
10月16日(木) 新潟県田中西中鑑賞会
10月17日(金) 18日(土) 秋田県下学校公演
11月10日(月) 福生高校鑑賞会
福生市民会館
11月12日(水) 第76回定期演奏会
都市センターホール

11月13日(木) 薬田台高校・市立船橋高校鑑賞会
習志野文化ホール
11月15日(土) 半田淳子民衆の日記念の集いに出演
埼玉県民会館大ホール
11月15日(土) 21日(金) 坂田誠山サロコンコンサート
松山市・宇和島・新居浜市・東広島市・松江市・米子市
11月26日(水) 半田淳子民衆の世界
武生市文化センター
11月28日(金) 紫山中学鑑賞会
船橋市民大ホール
12月7日(日) 高田紳八朗演奏会
大阪国立文楽劇場小ホール
12月9日(火) 14日(日) 細谷一郎ミラクルパークアクションに出演
青山円形劇場(子どもの城)
12月12日(金) 小学校6年生の卒業を祝う会に出演
利根沼田文化会館
12月12日(金) 久東寿子・大島菜穂子コンサート
市ヶ谷ルーテル教会
87年1月14日(水) 茂原公演
茂原東部台文化会館
1月18日(土) 三橋貴風・吉村七重ジョイントリサイタル
世田谷キヤロル
1月19日(日) 第97回定期演奏会
芝あび会館ホール

1月下旬
田原順子琵琶インアラウラーその2
聖蹟桜ヶ丘アラウラホール
2月8日(日) 三橋貴風が雪と尺八本曲の会に出演
福島県三島町
2月11日(水) 田嶋直士尺八リサイタル
戸塚公会堂
3月7日(土) 半田淳子琵琶の世界
飯能市民会館
3月中旬 三橋貴風尺八タダレコンサートに出演
スペース朝里
3月18日(水) 竹井誠が真しは会に出演
3月22日(日) 高田紳八朗が古川郁代氏とジョイントリサイタル
4月上旬 藤本郵便貯金会館
4月上旬 田原順子琵琶インアラウラーその3
聖蹟桜ヶ丘アラウラホール
6月上旬 第7回田原順子蔵前琵琶の会
名古屋市内において
5月19日(火) 第98回定期演奏会(10回シリーズその1)
朝日生命ホール
その他 ● 偶数月に出原順子が横浜スペースオルタにてコンサート
● 毎月20・21日に田中悠美子が上野本牧亭の女流義太夫の会に出演

油があるだけでは幸せな人生を送れないという大変なテーマであるから真面目に取り組んでほしい。人間の脳細胞は、生まれた時の約一四〇億個から増えることはない。それどころか成人では一日約十数億個が消滅していく程なのだ。余剰部分が消滅するわけだが、余剰部分とはつまり使われないところで、つまり使われなければ消滅するといふ厳しくも自然の掟なのである。運動不足による肉体の老化も哀れだが、脳の運動不足による老化は老いる・シヨックと言えらる位悲劇である。老いる・シヨックは経済がある程度支えるにしても、生命を維持するのは脳である。
新製品を開発できない企業はつぶれると言われているし、そうでなくても企業の寿命は三十年が定説である。頭のかたい頭脳集団ではダイナミックな仕事はできないのである。つまり何でも脳なのだ。Oh! 脳なのである。
諸君、脳を鍛えよう、今からでも遅くはない。日本音楽集団を聴き給え。脳に必要な「感動」をたっぷり摂取することができる。人に勧めるならなお効果がある。親切心は脳の右脳を鍛える。邦楽現代を読み給え、固定観念にこだわらない脳を開発できるのである。若いうちに(集団)を知ることは、年老いてゲートボールを知るよりも何倍も人生を楽しくするのである。では宗家は帰るゾと。
(黒髪 望)

中国地方公演及第12回関西西定期演奏会報告

藤崎 重康

中国地方公演最初の公演地である鳥取県では、先生方や県教育委員の方々の御理解を頂き、ここ数年学校公演の機会が増えてきている。

今回はそうした方々の御尽力により、中学校六校の学校公演とも合わせる形で、一般公演が二ヶ所実現したのである。(九月二十六日米子市公会堂、二十七日鳥取市民会館、鳥取でのプログラムは、組曲「人形風土記」、今年度話題作の組曲「ヤマトタケル」)

(この二曲は各地共通)、「大薩摩と狂い五段」、「那須与一」、「秋のファンタジー」、「四季」ダンス・コンセルタントⅠであった。事前の宣伝が各方面に行き渡ったとは言えず、入りは今一つであったが、来られたお客様には喜んでいただけた様に思う。アンコールに用意した地元の「貝殻節」も好評であった。

九月二十八日は公演もなく、皆それぞれに秋の山陰路の旅を楽しんだ。筆者は尺八の素川、打楽器の黒坂とともに鳥取大の井本健之君の車でドライブ。出雲大社の立派な社殿や巨大なしめ縄に驚き、日御崎では日本海に沈む夕日を眺め、夜は名物出雲そばに舌鼓を打つ。こうして一日は過ぎていったのである。

翌二十九日は出雲市。プログラム最後の曲は「ダンス・コンセルタントⅠ」に変わり地方公演では久々

の「古代舞曲によるパラフレーズ」。

地元出身の青山恵子氏の素晴らしいヴォーカリーズに、団員達も気持ちのこもった演奏で応える。当地では「日本音楽集団を聴く会」が組織され、その会長の片寄哲夫氏(ブラスパンドを育成し全国コンクールで数回の金賞をとった実績をお持ちの方)を始め多くの方々の御尽力で聴衆にも恵まれ久しぶりに熱気いっぱいのコンサートとなった。終演後お世話になった方々と交流のひとときを過ぎたが、ホテルに門限があり、短かかったのが残念であった。

三十日は益田市。ここは吾が指揮者田村の故郷。午後に行なわれた母校益田高校の鑑賞会では後輩達の盛大な拍手を受けて、とても嬉しそうであった。一般公演は午後六時半開演。会場はよく響き五万市民のうち六百人を集めるといふ熱気の中、前日と同じプログラムが演奏された。終ってから、お世話下さった家根原氏を始め地元の方々との交流会が開かれたが、出席された方は、中学、高校の同級生・同窓生・恩師といずれも田村の知合いの方ばかりで、改めて氏の交友の広さに団員一同敬服した次第であった。

十月一日の日原町は鮎と胡と星の町。川には鮎が泳ぎ、夜は星降る山あいの静かな町で、人口は五千人程。



益田からバスで三十分余り、会場の山村開発センターでは文化協会会長の下森女史や教育委員会の方が迎えて下さる。昼食に御馳走になった鮎の炊き込御飯を始め数々の手料理のおいしかったこと、そんな心暖まる雰囲気は会場を埋めた二百の聴衆からも感じられた。リクエストにに応えプログラムにはない「春の海」を急きょ演奏したりして感謝の気持ちを表わす。自然と人との触れあいに感動した一日であった。



十月二日はS.L.も走る山口線で下関へ向う。昼は中学校の学校公演。

夜は一般公演と、これまでに一度も公演したことがなかった山口県によるやく足跡を標すことができた。

十月三日は内藤洋子の出身地岡山。この日から加った高田が十八番の「鶴の果籠」を披露すれば、「小督の曲」では半田と内藤が息の合ったところを見せる。「パラフレーズ」の客演は地元山陽高校の佐々木英代先生。熱演に満員の客席からは割れんばかりの拍手が送られた。



十月四日津山市。この日の目玉は地元の山田美那子氏が作詞し、半田が歌と琵琶を付けた「阿国相聞歌」。

半田の歌が冴え渡り、舞台袖の団員たちも聴きほれる。お客さんもとても熱烈にアンコールを三曲もやったのはここだけであった。

一日の休日をのびのびと六日は大阪の関西定期。この日は「天点譜」が加わり全曲大編成というプログラム。「パラフレーズ」のヴォーカリーズは大阪出身の近藤日佐子氏。高音域もよく伸び聴衆を魅了する。当日券が五十枚も出るなど事前の動員活動の成果も現われ、今回の演奏旅行の最後を飾るにふさわしい一夜となった。

◇カセット好評発売中◇

A Collection of K. Nagasawa's Compositions
長沢勝俊作品集

◇待望の〈長沢作品〉を楽譜化◇

<No.1>

飛騨によせる三つのバラード・まゆだまのうた・六連星・合奏曲千鳥

<No.2>

二つの田園詩・秋によせる三つの幻想曲
三重奏曲・箏のしらべ

▶ 尺八譜 ◀

飛騨によせる三つのバラード 400円
まゆだまのうた 300円
秋によせる三つの幻想曲 400円
六連星 300円
二つの田園詩 300円

有 家庭音楽会出版部

〒810 福岡市中央区大名1-3-41
☎(092)741-2458 横樋口庄福岡8-5500

MME Tapes 発売元/大日本家庭音楽会

No.1	飛騨によせる三つのバラード (箏3・17絃・尺八)	400円
No.2	まゆだまのうた(箏・尺八)	400円
No.3	合奏曲 六段(箏3・17絃)	600円
No.4	春三冊(箏・三絃)	600円
No.5	秋によせる三つの幻想曲 (箏2・17絃・尺八)	600円
No.6	箏のしらべ(箏2・17絃)	500円
No.7	合奏曲 千鳥(箏3・17絃)	500円
No.8	六連星(箏・尺八)	400円
No.9	三重奏曲(箏2・17絃)	600円
No.10	二つの田園詩(箏・17絃・尺八)	500円
No.11	箏 協奏曲 (箏3・17絃・独奏箏)	700円

琴 三味線

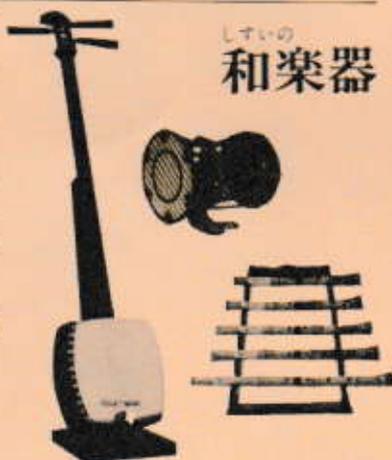
紅 屋

所沢市泉町1864-3
0429-25-3935 28-1082(夜)

永い伝統と経験から創り出される
豊富な“止水の和楽器”



—新発売—
明鏡笛(しの笛)
(正律管)
ベース三味線



しずいの
和楽器



止水の和楽器 発売元

明鏡楽器

〒130 東京都墨田区横川4-1-2 ☎(03)623-6346(代表)

古典から現代そして……
音の世界に飛翔する

誠和銘尺八

手頃な普及管から高級品まで
(普及管1尺8寸管に限り定価50,000円より)

(有) 誠和音芸

〒156 東京都世田谷区桜3-18-18
電話 03-420-0483

応援します「邦楽現代」

和楽器専門店

老舗

KK金善楽器店

京都市東山区大和太路通り四條下ル二丁目亀田町五七

TEL 五六一二二九四〇 五四一一〇九三

(075) 五二五一一三七五 (夜間)

日本の音、その磨きぬかれたたびびき



銘木尺八
コトヨウ
蝶

このマークが品質の保証です。

◇みやた尺八
(宮田耕八郎監修)
1.2尺~2.3尺管 5孔~7孔
参考価格 1.6尺~1.8尺
楓材 ¥20,000
合竹材 ¥40,000

◇みさと尺八
(山川直春監修)
女性向天然白色
1.2尺~2.3尺管
参考価格 1.6尺~1.8尺
楓材 ¥19,500
合竹材 ¥39,000

◇みさと笛
(ウラ穴有)
F(一本調子)~
E(十二本調子)

参考価格
楓材 C-B ¥9,000
合竹材 C-B ¥13,500
山川直春監修

◇蝴蝶笛
(ウラ穴無し)



尺八 蝶の店

〒146 東京都中央区新富一丁目5-3
TEL(03)353-4580

本社 (株)ワダ楽器

〒339-18 富山県東砺波郡城端町信栄451
TEL(076)362-2348・2-2221

○尺八のことなら全て扱う専門店です。
○音感販売も行っておりますのでカタログ御希望の方は無料送致致します。
○尺八の事なら何でも御相談に応じます。(尺八野郎の店)

最高の品質

常盤
強力[®]
琴糸

サエ グサ
三枝商店

琴・三絃一式

株式会社
琴の長澤

京都・中京区四條旧御前通り上ル
TEL 〇七五・八二一・一三四五

日本の佳き

伝統と

ともに



歌舞伎座・国立劇場御用

能楽長唄用

太鼓・小鼓

創業文久元年 / 宮内庁御用達

株式会社 宮本卯之助商店

本店 ● 東京都台東区浅草六丁目一番十五号

〒111 電話(03)八七四一四一三(代)

FAX(03)八七五五六〇二

西浅草店 ● 東京都台東区西浅草二丁目一番一号

〒112 電話(03)八四四一四一四(代)

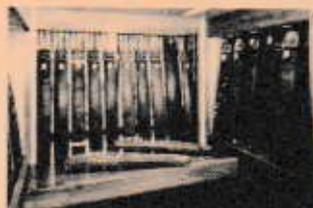
銀座店 ● 東京都中央区銀座七丁目八コリドール街

●詳細カタログご進呈いたします。

創業・昭和8年

お琴・三味線の琴栄

●東海一の実績を誇る店



◇1階・店舗

- ◇三味線、尺八、舞踊、多数陳列
- ◇お琴、三味線、尺八の付属品、楽譜 多数取揃えてあります

◇2階・お琴展示場(ミニ舞台付)

- ◇お琴、柱目琴、20絃琴、17絃琴と豊富に取揃えてあります
- ◇ミニ舞台でお琴を弾いて下さい

〈お問い合わせ〉 フレッシュ!お販売をご利用下さいませ。(最高3日保証)

〈プレゼント〉 無料送付致します。



御琴・三味線専門
琴栄楽器店
 代表・増田康寿
 〒500 岐阜市司町九(大守病院前)
 TEL (0582) 818260



露秋銘 尺八

西田露秋

〒794 今治市新谷新田甲798
 電話 0898-48-1097・1257

スーパー歌舞伎

ヤマトタケル

音楽編

梅原 猛 / 作
 戸部 銀作 / 監修
 奈河 彰輔 / 監修
 市川 猿之助 / 台本・演出
 美術 / 朝倉 拱
 照明 / 古井 茂雄
 音楽 / 長沢 勝俊
 演奏 / 日本音楽集団
 衣裳デザイン / 毛 村 臣 男
 製作 / 松竹株式会社



SIDE A

1. 序曲
2. 聖 宮化装(ノミナ)
3. 大徳命(オオスベコト)
4. 熊襲の国 伊弉諾命
5. ヤマトタケル

SIDE B

1. 熊襲(熊襲)アワノクミヤカ
2. 熊襲野(熊襲)
3. 志貴の星
4. タケルの死
5. 終曲 - 天降る白雉 -

●30cmLP C30R0133
 ¥3,000
 ●カセット 28P6532
 ¥2,800

発売中!!

CANYON RECORDS / PONY MUSIC & VIDEO TAPES

積立家族傷害保険



※安田火災海上

積立家族傷害保険 新発売

健康はご家族の大きな財産。
だから備えが必要です。

- ※ 損害保険の安田火災はあなたの暮らしをワイドに補償致します。
- ※ あなたの保険設計は明和損害保険企画におまかせ下さい。

日本音楽集団指定損害保険代理店
明和損害保険企画

RM 小笠原 明男 オフィス ☎937-0547
安田火災海上保険柳板橋支社 ☎962-7311

人間工学に基づいた背骨健康法(カイロプラクティック)と東洋医学で体系づけられたツポ指圧による全身マッサージ。遠赤外線の内熱効果には、血行増進、筋肉疲労、神経痛などの諸症状をやわらげるはたらきがあります。



製造元  **トランスベッド株式会社**

代理店 **(株)サニーライフ**

東京都新宿区歌舞伎町2-45-5 ☎03(208)5927

箏



オリジナル立奏台

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に
音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL (792)8481